

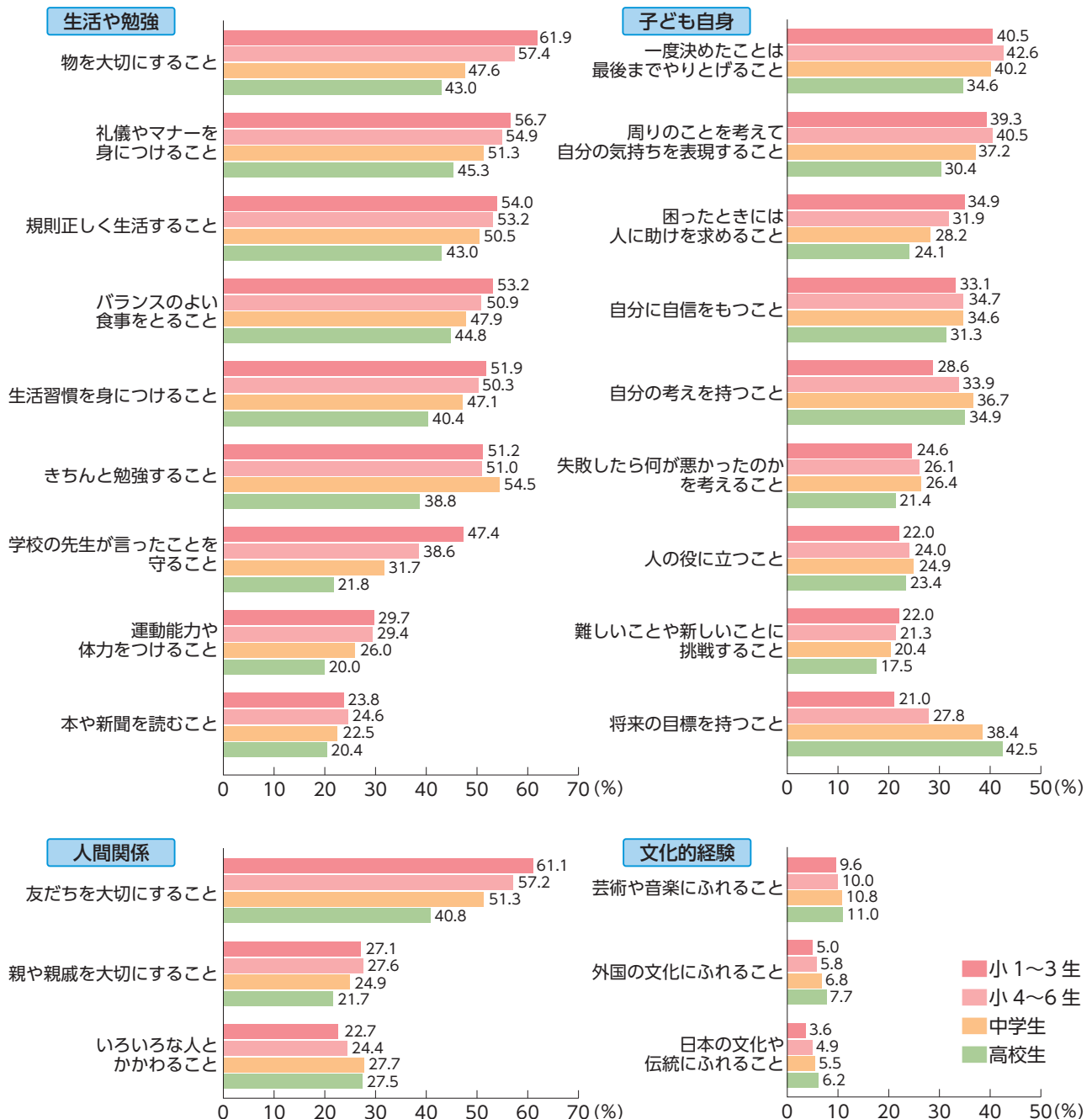
「文化的経験」よりも「生活習慣」や「人間関係」の大切さを伝えている保護者が多い

家庭で子どもに「よく伝えている」ことの割合をみると、小学生では「物を大切にすること」(6割前後)、中学生では「きちんと勉強すること」(5割5分)、高校生では「礼儀やマナーを身につけること」(4割5分)がもっとも高い。また「将来の目標を持つこと」は、学校段階が上がるにつれて、割合が高くなる。子どもの成長に合わせて保護者が重視することは異なっている。しかし、「日本の文化や伝統にふれること」「外国の文化にふれること」の割合はどの学校段階でも1割未満である。



家庭教育の中で、あなたはお子様に、次のことの大切さをどれくらい伝えていますか。

保護者 図6-1 家庭教育の中で伝えていること(学校段階別)



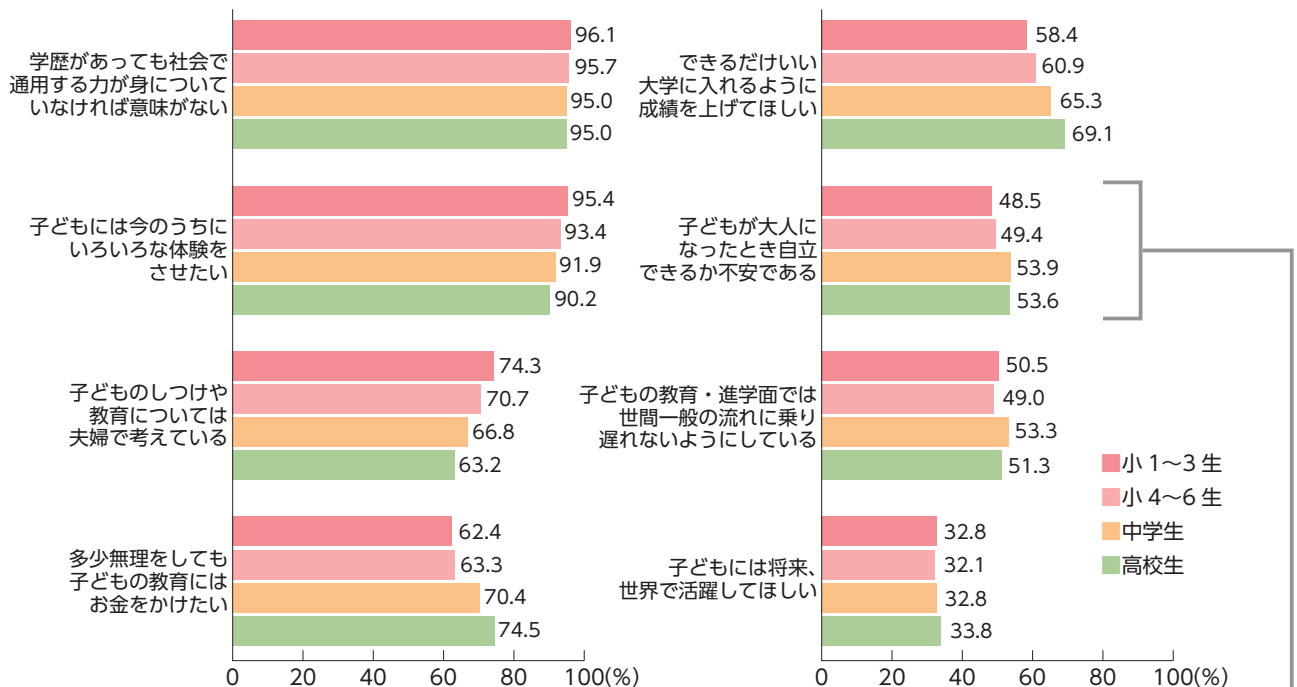
注 「よく伝えている」の%。

5割の保護者が「子どもが大人になったとき自立できるか不安である」と感じている

「子どもが大人になったとき自立できるか不安である」は、どの学校段階でも男子をもつ保護者が女子をもつ保護者より約5～10ポイント高く、男子をもつ保護者は子どもの自立に対して不安が高いようだ。家庭での約束やルールがあるかを尋ねたところ、「携帯電話やスマートフォンの使い方」にルールがある小学生は4割前後、中学生・高校生では5割台となっている。「勉強の時間」については、小学生の保護者の6割以上がルールが「ある」と回答し、学習習慣を重視する保護者の姿勢がうかがえる。

Q お子様の教育について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

保護者 図6-2 保護者の教育観(学校段階別)



保護者 表6-1 「子どもが大人になったとき自立できるか不安である」の割合(学校段階別・子どもの性別)

	小1～3生	小4～6生	中学生	高校生	(%)
男子	50.7	55.0	58.6	58.0	
女子	46.0	44.0	49.2	49.1	

Q あなたのご家庭では、お子様の生活や学習に関して、次のような約束やルールがありますか。

保護者 表6-2 家庭での約束やルールがある割合(学校段階別)

	小1～3生	小4～6生	中学生	高校生	(%)
テレビやゲームの時間	74.3	75.0	57.7	31.4	
勉強の時間	66.2	63.8	47.7	27.5	
お手伝い	48.6	53.2	45.8	34.4	
お金の使い方	43.8	57.0	54.0	44.7	
携帯電話やスマートフォンの使い方	37.0	42.9	56.7	52.3	

注1 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の% (図6-2、表6-1)。
 注2 学校段階別に比較してもっとも割合が高い値に濃いアミカケをした(表6-2)。

③保護者の悩みや気がかり

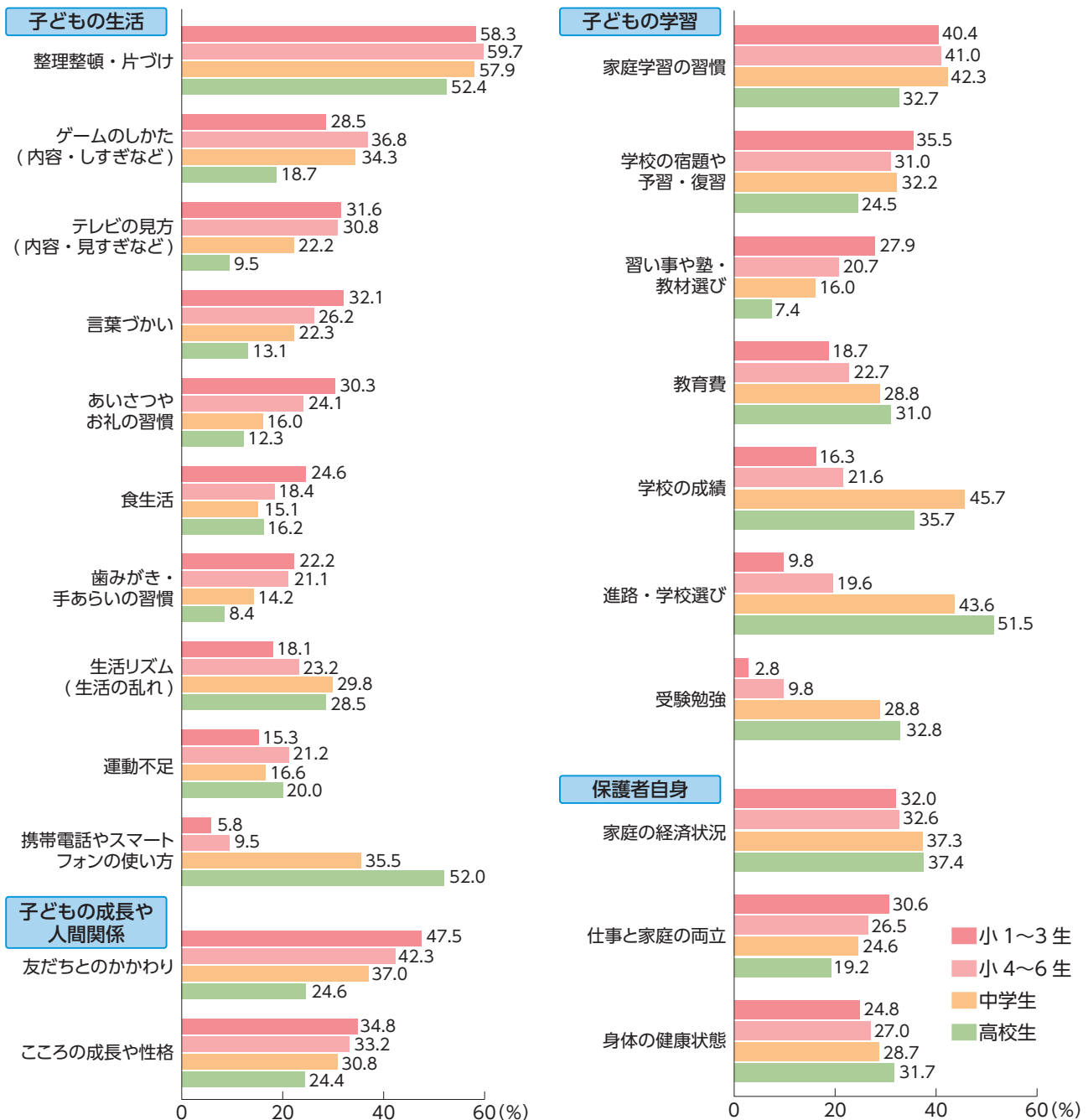
保護者の悩みや気がかりは、学校段階が上がるにつれて、基本的な生活習慣から、成績や進路、携帯・スマホの使い方へと移行する

保護者の悩みや気がかりについて上位3位をみると、1位はどの学校段階でも「整理整頓・片づけ」である(小学生・中学生6割弱、高校生5割)。さらに小学生では「友だちとのかかわり」(4割5分)と「家庭学習の習慣」(4割)、中学生では「学校の成績」(4割5分)と「進路・学校選び」(4割)、高校生では「携帯電話やスマートフォンの使い方」(5割)と「進路・学校選び」(5割)が続く。また、保護者自身についてはどの学校段階でも「家庭の経済状況」についてもっとも悩んでいる。



あなたは、お子様やあなたご自身のことについて、次のような「悩みや気がかり」がありますか。

保護者 図6-3 現在の悩みや気がかり(学校段階別)



注1 複数回答。

注2 いずれかの学校段階で20%以上の選択率の項目を掲載した。